

授 業 概 要

科目名 人間の尊厳と自立		授業の種類 講義		授業担当者 杉山せつ子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1 年次 秋		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。				
[授業全体の内容の概要] 人間の尊厳と自立の意義について学ぶ。人間の尊厳と自立の思想は、社会における介護の理論と実践の思想的な基盤となっていること、そしてこの思想は、人間の歴史における人権と文化の発展過程から生まれたものであることを学ぶ。さらにこの思想は、理念として法律や社会制度に生かされ、人々の幸せな生活の保障のための指標となっていることを実践を通して学ぶ。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 人間の尊厳と自立について、理念としての意義を明らかにし、その理念が介護における尊厳の保持・自立支援等の理解と実践の基盤となっていることを理解する。 2. 人間の尊厳と自立は、人権思想から導かれる社会の価値であること、そして人権としての自由権、生存権のもとでの現代社会での法律、制度、権利擁護等があることを理解する。 3. 人間の尊厳と自立が、介護における尊厳の保持・自立支援等の場面で生かされることを事例を通して身につける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：人間の尊厳の意義 第2回：自立の意義 第3回：人間の尊厳と自立における理念と現実 第4回：人間の尊厳と自立におけるニーズの理解 第5回：自立と健康で文化的な生活の関係 第6回：自立とリハビリテーションの関係（自立支援） 第7回：人権の思想から導かれる、人間の尊厳と自立 第8回：基本的人権と介護の理論と実践（介護における尊厳の保持） 第9回：法制度・社会のしくみからみた人間の尊厳と自立 第10回：人間の尊厳と自立における人間関係の形成 第11回：人間の尊厳と自立における介護実践（介護における尊厳の保持・自立支援） 第12回：人間の尊厳と権利擁護 第13回：価値と倫理 第14回：事例からみた人間の尊厳と自立 第15回：総括				
[使用テキスト] 『人間の尊厳と自立』 黒澤貞夫 建帛社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80%、中間試験 20%		
[参考文献]				

授 業 概 要

科目名 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 講義		授業担当者 ○太田雅子、坂本道子、藤田美枝子 鈴木光男、和久田佳代、小川千晴 細田直哉、二宮貴之	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 「自分のことのように、他者を考え支援する」⇔「愛の実践」を転嫁するための基礎となる力を養うために、実践例を基に、自己理解・他者理解、コミュニケーション力とコミュニケーションの基礎を修得できる授業展開とする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護の歴史や介護問題の背景等介護を取りまく状況を理解する。 2. 介護を必要とする人について、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 3. 障がい者や高齢者の暮らしの実際を理解する。 4. 介護を必要とする人の生活環境を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1回：人間関係の形成と心理 第 2回：自己覚知 第 3回：他者理解 第 4回：ラポール 第 5回：対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義） 第 6回：対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要） 第 7回：コミュニケーションを促す環境 第 8回：人間関係形成のためのコミュニケーションの技法（対人距離：物理的・心理的距離） 第 9回：人間関係形成のためのコミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション） 第10回：人間関係形成のためのコミュニケーションの技法（非言語的コミュニケーション） 第11回：人間関係形成のためのコミュニケーションの技法（受容・共感・傾聴） 第12回：人間関係形成のためのコミュニケーションの技法の事例（受容・共感・傾聴） 第13回：人間関係形成のためのコミュニケーションの実際（受容・共感・傾聴） 第14回：道具を用いた言語的コミュニケーション（機器を用いたコミュニケーション） 第15回：道具を用いた言語的コミュニケーション（記述等によるコミュニケーション）					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解』 中央法規出版（第3版）			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20%、課題レポート 30%、定期試験 50% によって評価する。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 社会の理解 I	授業の種類 講義		授業担当者 ○佐藤順子、大場義貴 佐々木正和
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする 我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする [授業全体の内容の概要] 生活支援に必要な知識として生活と福祉や社会保障制度について、実践的な事例を通して理解を深めることができるような授業を展開する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 家族・地域・社会・組織について基本的な理解ができる。 2. 人間の生活と社会の関わりが理解できる。 3. 自助から公助に至る過程について理解できる。 4. 日本の社会保障の基本的な考え方や歴史と変遷について理解する。 5. 社会保障制度の仕組みを基礎的な理解ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：家庭生活の基本機能 第 2 回：家族とは 第 3 回：地域社会と個人 第 4 回：人と社会、組織 第 5 回：個人・集団のエンパワメント 第 6 回：現代におけるライフスタイルと社会構造の変容 第 7 回：生活の支援と福祉の体系 第 8 回：社会保障の基本的な考え方 第 9 回：日本の社会保障制度の発達① 第 10 回：日本の社会保障制度の発達② 第 11 回：日本の社会保障制度の仕組み① 社会保障のしくみ、現代社会における社会保障制度の体系 第 12 回：日本の社会保障制度の仕組み② 年金、医療、介護、労働者関連の社会保険 第 13 回：現代社会と社会保障制度① 少子高齢社会の進行と社会保障 第 14 回：現代社会と社会保障制度② 社会保障における給付と負担の関係 第 15 回：社会保障の仕組み まとめ			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解』 中央法規出版（第 5 版）	[単位認定の方法及び基準] 授業態度 10%、課題レポート 30%、定期試験 60% によって評価する。		
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 社会の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 ○横尾恵美子、佐藤順子 福田俊子、村上武敏	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] その人を取り巻く社会的環境に働きかけ、その人の生活全体を支援する力を養うため、介護保険制度や障害者総合支援法等、実践に必要な法制度について具体的な実践例を提示しながら授業を展開する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護保険制度の創設の背景や目的を理解する。 2. 障害者総合福祉法の基礎を理解する。 3. 介護実践に関連する諸制度を理解する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：介護保険制度創設の目的、背景 第 2 回：介護保険制度の仕組み① 概要、保険者と被保険者、サービスの申請 第 3 回：介護保険制度の仕組み② 保険給付の対象者、保険給付の種類、介護サービスの内容 第 4 回：介護保険制度に関わる組織、団体とその役割 第 5 回：介護保険制度における専門職の役割 第 6 回：介護保険制度の動向 第 7 回：障害者総合支援制度創設の目的、背景と動向 第 8 回：障害者総合支援制度の仕組み 第 9 回：障害者総合支援制度に関わる組織、団体の機能と役割 第 10 回：個人の権利を守る制度の概要 第 11 回：保健医療福祉に関わる諸施策 第 12 回：介護と関連領域との連携に必要な法規 医療に関わる法と諸施策 第 13 回：生活を支える諸制度のあらまし 生活保護制度、福祉資金ほか 第 14 回：高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度 第 15 回：介護実践に関連する諸制度 まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解』 中央法規出版（第5版）			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 10%、課題レポート 30%、定期試験 60% によって評価する。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 聖隷の理念と介護福祉教育		授業の種類 講義	授業担当者 杉山せつ子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 聖隷学園における介護福祉専門職の教育は1978年福祉医療ヘルパー学園（ヘルパー学園略）に始まり現代に至る。ヘルパー学園は日本で最初に福祉と医療と一緒にした教育を行ったということで介護福祉教育のパイオニアである。 本科目の目的は聖隷学園における介護福祉教育を支えてくださる多くの法人のトップの人の生の声を聴き、これからの介護福祉運営のビジョンと本校への期待をしっかりと受け止め、学修の動機付けを図ることにある。同時に組織体のあり方、対人関係のあり方、リーダーとなった場合の人材育成のあり方等を身に付ける。 [授業全体の内容の概要] 聖隷学園における介護福祉教育を支えてくださる多くの法人のトップの人をゲストスピーカーとして、来ていただき、これからの介護福祉運営のビジョンと本校への期待をしっかりと受け止め、学修の動機付けを図る。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 聖隷学園の理念を説明できる。 2. 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校に学ぶ喜びと誇りを持つことができる。 3. 組織体のあり方、対人関係のあり方、リーダーとなった場合の人材育成のあり方等を身に付ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 各回、特別講師をお迎えして講義を展開します。 第 1 回：聖隷の理念（聖隷学園理事長：長谷川了） 第 2 回：現場の現状と学生に期待する事（十字の園） 第 3 回：現場の現状と学生に期待する事（小羊学園） 第 4 回：現場の現状と学生に期待する事（牧ノ原やまばと学園） 第 5 回：現場の現状と学生に期待する事（慈悲庵） 第 6 回：現場の現状と学生に期待する事（三幸会） 第 7 回：現場の現状と学生に期待する事（ひかりの園） 第 8 回：現場の現状と学生に期待する事（一穂会） 第 9 回：現場の現状と学生に期待する事（八生会） 第 10 回：現場の現状と学生に期待する事（和恵会） 第 11 回：現場の現状と学生に期待する事（白梅会・白梅福祉会） 第 12 回：現場の現状と学生に期待する事（七恵会） 第 13 回：現場の現状と学生に期待する事（日本老人福祉財団） 第 14 回：現場の現状と学生に期待する事（天竜厚生会） 第 15 回：現場の現状と学生に期待する事（聖隷福祉事業団）			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
テキストは使用しない。 参考文献は講義中に随時紹介する。		レポート 70%、授業態度 30% * レポートテーマ：	
[参考文献]		聖隷の歴史や豊かな環境の中で、教育を受けた自分たちだからできること	

授 業 概 要

科目名 キリスト教概論		授業の種類 講義	授業担当者 永井英司
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 聖書を概観し、中心的な教えである「隣人愛」を学ぶ。 聖書を学ぶことにより「生命」の基本的しくみや社会を見つめる感性、現在を生きる人間としての生き方について考える力を養う。 [授業全体の内容の概要] 各回のテーマに沿って講義をし、また質疑を通して、聖書の教えを学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 「聖書」また「イエスの生涯」から対人援助に携わる人間の心の在り方、姿勢を形成する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：聖書について説明、聖書の区分、課題レポートについて、三位一体の神について 第2回：祈り、聖書の理解のために、イエス・キリストについて「父なる神」と「イエス・キリスト」を対象に「聖霊」を受けて祈る 第3回：旧約聖書について 律法・預言・諸書 神と人間の関係 第4回：旧約聖書の律法・モーセの十戒について 律法主義について 第5回：旧約聖書が告げる歴史の意味について 人間の罪の歴史 聖書の間時代 旧約から新約へ 第6回：旧約聖書の文学書と預言書 ヨブ記について メシア預言について 第7回：新約聖書の福音書について 神の子イエス・キリストについて 第8回：新約聖書の手紙類について 新約聖書の使徒書について パウロの回心について 第9回：イエス・キリストの生涯から学ぶ 聖隷の精神について 第10回：イエス・キリストの「奇跡物語」が告げていること 「奇跡物語」の持つ意味について 第11回：イエス・キリストの「譬え話」が告げていること 「譬え話」の持つ意味について 第12回：マタイ 27章～28章の学び イエスの磔刑 十字架と愛 第13回：イエスの12弟子と使徒パウロ（サウロ）について 宣教活動・伝道活動 第14回：隣人愛について 終末（論）と再臨について 聖書が告げる究極的な教えとしての隣人愛 第15回：聖書の正典性について まとめ			
[使用テキスト] ・『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 ・『キリストの教え』鈴木崇巨著 春秋社 ・『夜も昼のように輝く』長谷川保著 聖隷学園		[単位認定の方法及び基準] ・『夜も昼のように輝く』読書感想レポート（50%） ・定期試験（50%） ・再試験は実施しない。	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 国語表現基礎		授業の種類 講義		授業担当者 渡辺泰宏	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 現代社会の基礎的問題を理解し、現代を生きる人間としての生き方や考える力を養う為の基礎的な力を身に付けることを目的に国語表現の方法を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 日本語は、普段われわれが使っている言語であり、何となく使いこなせてしまう。ところが、この日本語は、世界で最も難しい言語の一つなのである。そんな難しい言語が何となく使いこなせる日本人は確かにすごい。しかし、この何となく使っている日本語は本当に正確なものなのだろうか。実は日本語にもしっかりと法則や決まりがあり、それを知ってこそ、正確な日本語が話せ、書けるはずなのである。本授業では、そのような方法で日本語の勉強をしてみたい。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 説明文、レポート、小論文などを上手に書けるようにし、学業において困ることがないようにする					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：日本語表現法概説1＜日本語とはどんな言葉か、何を学ぶのか＞ 第2回：日本語表現法概説2＜日本語とはどんな言葉か2＞ 第3回：日本語の特徴＜標準語と方言、書き言葉と話し言葉等＞ 第4回：日本語の言いまわし＜日本語独特の表現・適切な表現＞ 第5回：主語と述語1＜助詞「は」と「が」＞ 第6回：主語と述語2＜助詞「が」と「を」、「も」・助動詞＞ 第7回：文章（文と文のつながり）1＜文の接続と句読点＞ 第8回：文章（文と文のつながり）2＜文の構造と悪文＞ 第9回：敬語1＜敬語とは＞ 第10回：敬語2＜敬語用法の実際＞ 第11回：手紙を書く＜手紙の書き方と敬語＞ 第12回：文章要約＜文章を要約する＞ 第13回：説明文＜説明文を書く＞ 第14回：小論文を書く＜レポート・小論文を書く＞ 第15回：小論文の解説＜レポート・小論文の解説＞					
[使用テキスト] プリントを配布する			[単位認定の方法及び基準] 毎回の提出物 20%、定期試験 80% なお、再試験は行わない。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 情報処理基礎		授業の種類 演習		授業担当者 津森伸一	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1 年次 秋		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 高度情報化社会においては、社会生活や日常生活のあらゆる場面でパソコンを初めとする情報機器の利活用能力が求められる。本授業では、家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習の一環としてパソコンの基本操作に加えて、文書作成や情報の整理・加工を行うために必要なソフトウェアの操作方法や活用方法を習得する。また表計算処理の知識に触れることで、数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用と数学的・論理的思考を養う。					
[授業全体の内容の概要] パソコン基本ソフト及びオフィス系ソフトの代表格であるMicrosoft Windows及びMicrosoft Office (Word, Excel, PowerPoint)の基本的な操作方法を学習する。また、ビジネスレターの作成や数値データの処理・グラフ作成、マルチメディアデータやアニメーション処理を導入したプレゼンテーションスライドの作成等、実用的な活用方法を多くの例題を通して習得する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. パソコンやWindowsの基本的な操作とタッチタイピングができる。 2. ワードプロソフトを用いて、ビジネス文書やパンフレットのような文書を作成することができる。 3. 表計算ソフトを用いて、データ入力や基礎的な関数の利用、グラフ作成を行うことができる。 4. プレゼンテーションソフトを用いて、スライド作成やアニメーション設定を行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1章 パソコン・Windowsの基本操作 第1回 : パソコン・Windows の操作方法, タッチタイピング 第2章 ワードプロを用いた文書作成 第2回 : Word の基本操作 第3回 : 文書の印刷とページ設定, 表の作成 第4回 : クリップアートやワードアート等を用いた表現力の高い文書の作成 第5回 : ビジネスレターの作成 第6回 : パンフレット, チラシの作成 第3章 表計算処理の基礎 第7回 : Excel の基礎知識, データの入力・編集, ブックの操作 第8回 : 表の体裁の設定, 印刷方法 第9回 : 関数の利用 第10回 : 相対参照と絶対参照 第11回 : グラフ(棒・折れ線・円等)の作成 第4章 プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成 第12回 : PowerPoint の基礎知識, スライドの作成とスライドショーの実行 第13回 : 画像や図表の挿入と編集 第14回 : 画面切り替え, ビデオファイルの作成 第15回 : アニメーションの利用					
[使用テキスト] 『30時間でマスター Office2013』 実教出版編集部編 実教出版			[単位認定の方法及び基準] 毎回課す提出課題により 100%評価する。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 杉山せつ子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 春	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」という新しい介護の考え方を理解する。 「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。 「そのひとらしさ（生活史・価値観・生活様式他の多様性）」を理解する。			
[授業全体の内容の概要] 生活支援に必要な倫理感を深く身に着け、科学的な個別ケアを展開できる基礎力を涵養することを主眼として授業を展開する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護の歴史や介護問題の背景等介護福祉士を取りまく状況を理解する。 2. 介護を必要とする人について理解し、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 3. 障がい者や高齢者の暮らしの実際を理解する。 4. 介護を必要とする人の生活環境を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：介護の歴史と介護の概念・定義 第 2 回：介護問題の背景 第 3 回：介護ニーズの変化 第 4 回：人間の多様性・複雑性の理解 第 5 回：「要介護状態」「障がい」と「生きる」を支える介護 第 6 回：高齢者介護とその社会的課題 第 7 回：私たちの生活の理解 第 8 回：高齢者の暮らしの実際 第 9 回：障害のある人の暮らしの理解 第10 回：「その人らしさ」の理解 第11 回：「生きてきた過程」と生活支援 第12 回：さまざまな生活支援とその意義 第13 回：尊厳を支える介護 第14 回：生活を支える基盤 第15 回：生活を支えるサービスの現状と課題			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ』 中央法規出版（第3版）		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20%、課題レポート 30%、定期試験 50% によって評価する。	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 植田裕太郎	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習とする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 介護を必要（対人支援を必要）とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 尊厳を支える介護について理解を深め、さらに自立に向けた介護について、ICFの概念やリハビリテーションとも関連づけて解説するとともに、自立支援介護の実践例も紹介しながら講義を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 人権尊重について理解を深め、QOLやノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。 2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICFやリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：介護が必要な人々の人権擁護について理解し、利用者主体の介護実践について考える。 第2回：身体拘束をなくすための具体的な支援方法を理解する。 第3回：感情労働としての介護を理解する。 第4回：尊厳を支える介護 QOL（Quality of Life）について理解する。 第5回：ノーマライゼーションの考え方とその実現について理解する。 第6回：自立・自律の考え方を理解し、自己決定・自己選択、自立支援について考える。 第7回：生活意欲への働きかけとエンパワメント、利用者主体について理解する。 第8回：介護における ICF のとらえ方について理解する。 第9回：ICF を活かしたアセスメントの視点を理解し、個別ケアについて考える。 第10回：自立に向けた介護 介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解する。 第11回：リハビリテーションの考え方を活かした介護予防、自立支援介護について理解する。 第12回：リハビリテーション専門職との連携について理解する。 第13回：自立支援介護の実践例をみて、その支援方法を理解する。 第14回：事例をもとに、病院・施設でのリハビリテーションについて理解する。 第15回：事例をもとに、在宅でのリハビリテーションについて理解する					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20% によって評価する。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅲ		授業の種類 講義		授業担当者 野田由佳里	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士が行う様々な生活支援の意義と役割について理解させるとともに、尊厳の保持を実践する介護の在り方や、自立した生活を支える機能維持の在り方、リハビリテーションやＩＣＦの考え方と実践の在り方について理解させる。					
[授業全体の内容の概要] ① 社会福祉士及び介護福祉士法の役割と支えるしくみについて学習する。 ② 尊厳を支える介護実践について学び、ＱＯＬ、ノーマライゼーションを理解する。 ③ 介護サービスとして生活支援を支える概念ＩＣＦやリハビリテーションの意義と役割を学習する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して、尊厳の保持やリハビリテーションの意味を理解し、サービス提供の場に応じ、利用者のＱＯＬ及び利用者を主体的に捉え、かつその向上を目指す適切な生活支援につなげられる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 回：ガイダンス及び介護の基本Ⅲの学習内容の説明と進め方「介護サービスとは」 2 回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護 3 回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の定義（名称独占・業務独占） 4 回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の果たす役割やその業務内容 5 回：養成制度・登録状況・介護における専門職集団としての役割・機能 6 回：介護職が行う生活支援（身体拘束禁止・高齢者虐待・児童虐待 他） 7 回：身体介護・相談援助・家族支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性 8 回：生きがいを大切にする生活支援・日常生活の拡大に向けた生活支援の進め方 9 回：ＩＣＦに基づく生活支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性 10 回：ＩＣＦの視点に基づくアセスメントによる生活支援の特徴〈生活意欲・エンパワメント〉 11 回：ケアプラン・ケアマネジメントの流れ・意味と仕組み 12 回：介護保険制度の理解（介護保険のサービスの種類・サービス報酬・算定基準） 13 回：介護サービスの概要 居宅系サービス・施設系サービスの提供の場と特性 14 回：介護実践におけるリハビリテーション・居住環境の違い（病院・施設・介護予防） 15 回：リハビリテーションスタッフとの連携を活かす介護実践の進め方					
[使用テキスト] ①『新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』 中央法規出版 ②授業内容に関連する事例検討内容等は、随時資料として配布予定			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、レポート、定期試験による評価		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅳ		授業の種類 講義	授業担当者 佐野仁美
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を、生活の観点からとらえるための学習である。本科目では介護福祉士の役割や専門性を踏まえ、介護実践における連携、多職種連携（チームアプローチ）について学び、地域連携の在り方について考える。また介護従事者自身の健康について考え自己管理や介護従事者の安全を学ぶ科目でもある。 [授業全体の内容の概要] 多職種連携の意義と目的の理解を行い、連携する意義や方法を学ぶ科目であり。また介護従事者の安全をグループワークにて考える科目である。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護サービスにおける多職種連携の意義と方法を述べること 2. 介護福祉実践における多職種および地域との連携について説明できる。 3. 介護福祉実践における完全確保の方策について説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1回：ガイダンス及び「介護実践とは」 第 2回：多職種の理解と連携 第 3回：利用者を取り巻く多職種連携 第 4回：地域連携の意義と目的 第 5回：利用者を取り巻く地域連携の実際 第 6回：介護に携わる人の健康管理 第 7回：介護という仕事の特徴 第 8回：介護職の健康と介護の質 第 9回：こころの健康管理 第10回：からだの健康管理 第11回：【事例 1】バーンアウト症候群 第12回：【事例 2】腰痛体操 第13回：安心して働ける環境づくり 第14回：労働環境の整備と改善 第15回：労働安全の基本原則			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 80%、授業態度 10%、課題提出物 20% によって評価する。	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 介護の基本Ⅴ		授業の種類 講義	授業担当者 佐野仁美
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点からとらえるための学習である。改めて自立とはなにか、自立を促すことの危険性を防護するために何をするべきかを考えさせる。介護における安全の確保とリスクマネジメントについてサービス提供側と利用者側双方の立場から考えていけるような、具体的な事例検討を中心にて学ぶ科目である。 [授業全体の内容の概要] 介護における安全の確保とリスクマネジメントについてサービス提供側と利用者側双方の立場から考えていけるような、具体的な事例検討を中心にて学ぶ科目である。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識・理論や技能を体系的に理解する。 2. 対人援助・社会支援の問題を解決するための方法を説明することができる。 3. 介護職と利用者の安全を確保するための留意点を理解する 4. 介護におけるリスクマネジメントの必要性和その方法について学ぶ 5. 施設及び在宅介護に伴う事故について知識を深め、その予防方法と対処法を学ぶ 6. 事故防止・安全対策・感染対策について考えることができる [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：自立に向けた介護① 介護現場における安全の概念と確保 第 2 回：自立に向けた介護① 介護現場におけるセーフティマネジメント 第 3 回：自立に向けた介護① 観察の視点・正確な生活支援技術 第 4 回：介護従事者の安全① 介護事故とヒヤリハット（予測・分析） 第 5 回：介護従事者の安全① 事故防止と安全対策 第 6 回：介護従事者の安全① 環境改善とリスクマネジメント（セーフティマネジメント） 第 7 回：自立に向けた介護② 服薬・生活医行為・受診援助 第 8 回：自立に向けた介護② 医療職とのアプローチ＜転倒・転落防止・骨折予防＞ 第 9 回：介護従事者の安全② 防火・防災対策・地域とのネットワーク（緊急連絡システム） 第 10 回：介護従事者の安全② 感染予防の意義と実際介護 第 11 回：自立に向けた介護③ 感染予防の基礎知識と技術 第 12 回：自立に向けた介護③ 衛生管理・利用者の生活の安全＜鍵の閉め忘れ・消費者被害＞ 第 13 回：介護従事者の安全③ 介護従事者の健康管理①腰痛予防と対策 第 14 回：介護従事者の安全③ 介護従事者の健康管理②感染予防と対策＜感染管理＞ 第 15 回：介護従事者の安全③ リスクマネジメント			
[使用テキスト] ①『新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』 中央法規出版 ②授業内容に関連する事例検討内容等は、随時資料として配布予定		[単位認定の方法及び基準] 授業への参加態度 10% レポート 10% 定期試験 80%	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 介護の基本VI	授業の種類 講義		授業担当者 植田裕太郎
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を、生活の観点からとらえるための学習。介護福祉士が行う様々な生活支援の意義と役割について理解させるとともに、介護従事者の倫理を理解し、専門職者として意識を高める。 [授業全体の内容の概要] ④ 社会福祉士及び介護福祉士法の役割と介護従事者の倫理（職業倫理）について学習する。 ⑤ 利用者の人権と介護について身体拘束や虐待などいろんな方面から学ぶ。 ⑥ プライバシーの保護の意義と介護職の役割を学習する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して、尊厳の保持や倫理的思考で捉えることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス及び介護の基本VIの学習内容の説明と進め方「介護従事者の職業倫理とは」 第2回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と介護 第3回：どのようにしたら利用者の人権が護れるか・・・グループワーク 第4回：介護実践における倫理 日本介護福祉士会倫理綱領 第5回：介護実践における倫理 介護従事者の職業倫理・ 第6回：介護実践における倫理 プライバシー保護 第7回：介護実践における倫理 個人情報保護、その他 第8回：介護実践における倫理 介護職が行う生活支援を振り返り、 尊厳・人権がどのように護られていたか・・・グループワーク 第9回：身体拘束禁止について・・・講義 第10回：身体拘束禁止・・・事例からグループワーク 第11回：高齢者虐待・児童虐待について・・・講義 第12回：高齢者虐待・児童虐待について・・・1事例からグループワーク 第13回：高齢者虐待の事例から グループで発表 第14回：児童虐待の事例から グループで発表 第15回：まとめ・解説			
[使用テキスト] ①『新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』 中央法規出版 ②授業内容に関連する事例検討内容等は、随時資料として配布予定		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 10%、レポート 10%、定期試験 80% による評価	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 コミュニケーション技術Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 落合克能
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 春	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。利用者・家族とのコミュニケーション技法とチームにおけるコミュニケーションの方法を修得することを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 利用者・家族とのコミュニケーションの技法を講義と演習を通して体感し、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養う。また、記録の意味と方法について事例を通して身につける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護における利用者・家族とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。 2. チームのコミュニケーションにおける、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。 3. 記録の具体的な書き方や留意点が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 回：話を聴く技法 2 回：利用者の感情表現を察する技法 3 回：利用者の納得と同意を得る技法 4 回：質問の技法 5 回：相談・助言・指導の技法 6 回：利用者の意欲を引き出す技法 7 回：利用者と家族の意向を引き出す技法 8 回：複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 9 回：介護における記録の意義と目的 10 回：介護における記録の書き方と留意点 11 回：介護記録における個人情報保護 12 回：報告・連絡・相談と会議 13 回：事例による記録の演習① 14 回：事例による記録の演習② 15 回：事例による記録の演習③			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] レポート 10%、小テスト 20%、試験 70 点 の総合評価	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 講義		授業担当者 井川淳史
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的理論を理解し、技術を習得する科目である。 [授業全体の内容の概要] コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学ぶ。 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実践をみて、実践と理論をつなげる。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の生活困難や意思疎通の在り方を理解できる。 2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践が適切に行える基礎知識や技術を修得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス 介護場面でのコミュニケーション 第 2 回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者と介護 第 3 回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状 第 4 回：コミュニケーション障害に対するアセスメント 第 5 回：感覚機能が低下した人とのコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 6 回：失語症の特性に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 7 回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 8 回：認知症の特性に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 9 回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 10 回：視力の障害に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 11 回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 12 回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 13 回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション 講義及びロールプレイ 第 14 回：コミュニケーション支援ツールの理解と作成 第 15 回：事例による特性に応じたコミュニケーション演習			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% レポート 10% 授業態度 10%	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 生活支援技術基礎Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 佐野仁美
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 応用可能な基礎的な生活支援技術：自立に向けた移動の介護、ベッドメイキング、自立に向けた身じたくの介護を、利用者体験、介護者体験を通して学びます。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・自立に向けた移動の介護を行うことができる。 ・ボディメカニクスを応用したベッドメイキングを行うことができる。 ・自立に向けた身じたくの介護を行うことができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1- 2 回：ガイダンス 生活支援、生活支援とは何か、ボディメカニクスの基本 第 3- 4 回：自立に向けた移動の介護① 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント 第 5- 6 回：自立に向けた移動の介護② 歩行の介助の技法 第 7- 8 回：自立に向けた移動の介護③ 車椅子の介助 第 9-10 回：自立に向けた移動の介護④ 安楽な体位の保持、体位変換 第 11-12 回：自立に向けた移動の介護⑤ 実技確認 第 13-14 回：ベッドメイキング① 二人で行うベッドメイキング 第 15-16 回：ベッドメイキング② 一人で行うベッドメイキング 第 17-18 回：ベッドメイキング③ 実技確認 第 19-20 回：自立に向けた身じたくの介護① 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント 第 21-22 回：自立に向けた身じたくの介護② 整容、口腔の清潔 第 23-24 回：自立に向けた身じたくの介護③ 衣服着脱 第 25-26 回：自立に向けた身じたくの介護④ 衣服着脱 第 27-28 回：自立に向けた身じたくの介護⑤ 実技確認 第 29-30 回：まとめ				
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%		
[参考文献]				

授 業 概 要

科目名 生活支援技術基礎Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 植田裕太朗
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 応用可能な基礎的な生活支援技術：自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護を、利用者体験、介護者体験を通して学びます。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・自立に向けた食事の介護を行うことができる。 ・自立に向けた入浴・清潔保持の介護を行うことができる。 ・自立に向けた排泄の介護を行うことができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1- 2 回：自立に向けた食事の介護① 食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント 第 3- 4 回：自立に向けた食事の介護② 水分補給、脱水予防 第 5- 6 回：自立に向けた食事の介護③ 座位での食事介助、口腔ケア 第 7- 8 回：自立に向けた食事の介護④ ベッド上での食事介助、口腔ケア 第 9- 10 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護① 入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント 第 11-12 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護② 入浴、シャワー浴 第 13-14 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護③ 全身清拭、陰部清拭 第 15-16 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護④ 足浴・手浴、洗髪 第 17-18 回：自立に向けた排泄の介護① 排泄の意義・目的、排泄に関する利用者のアセスメント 第 19-20 回：自立に向けた排泄の介護② トイレ、ポータブルトイレ 第 21-22 回：自立に向けた排泄の介護③ 採尿器・差し込み便器 第 23-24 回：自立に向けた排泄の介護④ おむつ① 第 25-26 回：自立に向けた排泄の介護⑤ おむつ② 第 27-28 回：自立に向けた排泄の介護⑥ 実技確認 第 29-30 回：まとめ				
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%		
[参考文献]				

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 演習	授業担当者 杉山せつ子
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（2単位）	配当学年・時期 2年次 春	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している人の、身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄の介護について、留意点や自立に向けた視点を織り込みながら学びます。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・感覚機能の低下している人の、自立に向けた身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄の介護ができる。 ・運動機能の低下している人の、自立に向けた身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄の介護ができる。 ・認知・知覚機能が低下している人の、自立に向けた身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄の介護ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 第 2 回：自立に向けた身じたくの介護① 利用者の状態・状況に応じた介助（感覚機能の低下） 第 3- 4 回：自立に向けた身じたくの介護② 利用者の状態・状況に応じた介助（運動機能の低下、認知・知覚機能の低下） 第 5- 6 回：自立に向けた移動の介護① 利用者に応じた介助（感覚機能の低下） 第 7- 8 回：自立に向けた移動の介護② 利用者に応じた介助（運動機能の低下） 第 9-10 回：自立に向けた移動の介護③ 利用者に応じた介助（認知・知覚機能の低下） 第 11-12 回：自立に向けた食事の介護① 利用者に応じた介助（感覚機能の低下） 第 13-14 回：自立に向けた食事の介護② 利用者に応じた介助（運動機能の低下） 第 15-16 回：自立に向けた食事の介護③ 利用者に応じた介助（認知・知覚機能の低下） 第 17-18 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護① 利用者に応じた介助（感覚機能の低下） 第 19-20 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護② 利用者に応じた介助（運動機能の低下） 第 21-22 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護③ 利用者に応じた介助（認知・知覚機能の低下） 第 23-24 回：自立に向けた排泄の介護① 利用者に応じた介助（感覚機能の低下） 第 25-26 回：自立に向けた排泄の介護② 利用者に応じた介助（運動機能の低下） 第 27-28 回：自立に向けた排泄の介護③ 利用者に応じた介助（認知・知覚機能の低下） 第 29-30 回：まとめ			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 30回		時間数(単位数) 60時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 在宅、訪問介護をイメージし、自立に向けた家事の介護：調理、洗濯、掃除・ごみ捨て、裁縫、衣類・寝具の衛生管理、買い物、家庭経営、家計の管理について学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・生活を維持していくための家事の重要性について理解することができる。 ・自立に向けた家事の介護が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス 家事の意義・目的 第 2 回：自立に向けた家事の介護① 家事に関する利用者のアセスメント、家事に参加することを支える介護 第 3- 4 回：自立に向けた家事の介護② 衣類・寝具の衛生管理 第 5- 6 回：自立に向けた家事の介護③ 調理の支援とは何か、調理のプロセス 第 7- 8 回：自立に向けた家事の介護④ 調理の準備、買い物 第 9-10 回：自立に向けた家事の介護⑤ 基本の調理① 第 11-12 回：自立に向けた家事の介護⑥ 基本の調理② 第 13-14 回：自立に向けた家事の介護⑦ 利用者に応じた調理① 第 15-16 回：自立に向けた家事の介護⑧ 利用者に応じた調理② 第 17-18 回：自立に向けた家事の介護⑨ 掃除、ごみ捨て 第 19-20 回：自立に向けた家事の介護⑩ 洗濯 第 21-22 回：自立に向けた家事の介護⑪ 基本の裁縫① 第 23-24 回：自立に向けた家事の介護⑫ 基本の裁縫② 第 25-26 回：自立に向けた家事の介護⑬ 衣類の工夫 第 27-28 回：自立に向けた家事の介護⑭ 家事の介助の技法 買い物、家庭経営、家計の管理 第 29-30 回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 春	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 全ての生活支援の基礎となる、生活について自身の経験と結びつけながら理解を進め、生活支援、自立に向けた居住環境の整備を学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・生活、生活支援について理解できる。 ・自立に向けた居住環境の整備を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス 生活とは何か 第 2 回：生活支援とは何か 第 3 回：自立に向けた居住環境の整備① 居住環境整備の意義と目的、生活空間と介護 第 4 回：自立に向けた居住環境の整備② 居住環境のアセスメント 第 5 回：自立に向けた居住環境の整備③ 安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫 第 6 回：自立に向けた居住環境の整備④ 快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成 第 7 回：自立に向けた居住環境の整備⑤ プライバシーの確保と交流の促進 第 9 回：自立に向けた居住環境の整備⑥ 住宅改修 第 10 回：自立に向けた居住環境の整備⑦ 住宅のバリアフリー化 第 11 回：自立に向けた居住環境の整備⑧ ユニバーサルデザイン 第 12 回：自立に向けた居住環境の整備⑨ ユニットケア 第 13 回：自立に向けた居住環境の整備⑩ 居室の個室化 第 14 回：自立に向けた居住環境の整備⑪ なじみの生活空間づくり 第 15 回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 生活支援技術Ⅳ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 秋	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 自立に向けた睡眠の介護について、終末期の介護について、利用者体験、介護者体験を通じて学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 自立に向けた睡眠の介護について理解できる。 終末期の介護とは、終末期の介護における介護福祉士の役割を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：自立に向けた睡眠の介護① 睡眠の意義・目的、睡眠に関する利用者のアセスメント 第 2 回：自立に向けた睡眠の介護② 安眠の為の介護 第 3 回：自立に向けた睡眠の介護③ 安眠を促す介助の技法 第 4 回：終末期の介護① 終末期における介護の意義、目的 第 5 回：終末期の介護② 終末期における介護の意義、目的 第 6 回：終末期の介護③ 終末期における利用者のアセスメント 第 7 回：終末期の介護④ 医療との連携 第 9 回：終末期の介護⑤ 看取りのための制度 第 10 回：終末期の介護⑥ 終末期における介護 第 11 回：終末期の介護⑦ 臨終時の介護① 第 12 回：終末期の介護⑧ 臨終時の介護② 第 13 回：終末期の介護⑨ 臨終時の介護（家族への対応） 第 14 回：終末期の介護⑩ グリーフケア 第 15 回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度30%、課題提出物10%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護過程基礎論Ⅰ		授業の種類 講義		授業担当者 横尾恵美子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1 年次 春	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 [授業全体の内容の概要] 本科目では、介護過程とは何か理解を深め、介護過程の意義を学ぶ。そのうえで、介護過程の構成要素の理解を深め、最後に介護過程と生活支援の関連を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・介護過程とは何か説明できる。 ・介護過程の意義と目的について説明できる。 ・介護過程の構成要素について説明できる。 ・介護過程と生活支援の関連について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス 介護過程とは、介護過程の意義・目的・目標 第 2 回： 介護過程の展開プロセス（介護過程の構成要素） 第 3 回：アセスメント 第 4 回： I C F（国際生活機能分類）C D 視聴 第 5 回： I C F に基づくアセスメント 第 6 回：計画の立案 第 7 回：実施 第 8 回：評価 第 9 回：介護過程の展開の八つの視点 第 10 回：生活支援の考え方と介護過程の必要性 第 11 回：演習 1 「具体的な場面から、必要な知識・技術を考えてみよう」個人ワーク 第 12 回：演習 2 「具体的な場面から、必要な知識・技術を考えてみよう」グループワーク 第 13 回：発表① 第 14 回：発表② 第 15 回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 定期試験 70%、授業態度 30%	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護過程基礎論Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 植田裕太郎	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。					
[授業全体の内容の概要] 本科目では、「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の4つの構成要素について、基礎的な知識を身に付ける。さらに事例を用いた演習により、介護過程を展開する方法を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・アセスメントにおける留意点を説明できる。 ・目標設定における留意点を説明できる。 ・実施する際の留意点を説明できる。 ・評価をする際の留意点を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1回：ガイダンス 介護過程とは、介護実習Ⅰの振り返り （コミュニケーション、人間関係を深める） 第 2回：介護過程の展開プロセス（介護過程の構成要素）復習 第 3回：情報収集 第 4回：情報の解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化 第 5回：演習1「学生同士ペアになり、アセスメントをしてみよう」 第 6回：発表①クラス全体で討論 第 7回：発表②クラス全体で討論 第 8回：アセスメント事例1 第 9回：アセスメント事例2－1 第10回：アセスメント事例2－2 作業：事例の解答例を様式へ転記 第11回：計画の立案① 第12回：計画の立案② 第13回：実施 第14回：評価 第15回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 定期試験 70%、授業態度 30%	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護過程展開法Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 植田裕太郎	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 春	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。					
[授業全体の内容の概要] 他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例や追体験できるICFの概念に基づいた介護過程の展開事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、さらに、情報の関連図や介護過程の展開ツールを紹介し、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。介護過程とチームアプローチの関係についても学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・介護過程の展開方法について理解を深めることができる。 ・介護過程の実践的展開能力が身についている。 ・介護過程とチームアプローチについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス、介護過程の意義、介護過程の構成要素復習 追体験の目的 第 2 回：アセスメントの実際—テキストの関連図と「介護過程の展開における情報の関連図」 第 3 回：アセスメントの実際— 演習 介護実習Ⅱの情報の関連図を描いてみよう。 第 4 回：アセスメントの実際— 演習 介護実習Ⅱの情報の関連図の発表 第 5 回：アセスメントの実際— 演習 介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化 第 6 回：アセスメントの実際— 演習 介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化発表 第 7 回：「介護過程の展開ツール」の紹介 第 8 回：「ICF に基づく介護過程の展開」と「介護過程の展開ツールの比較」 第 9 回：介護過程の実践的展開—追体験（介護老人保健施設で生活する S さんの事例） 第 10 回：介護過程の実践的展開—追体験（介護老人保健施設で生活する S さんの事例） 第 11 回：介護過程の実践的展開—追体験（障害者支援施設で生活する F さんの事例） 第 12 回：介護過程の実践的展開—追体験（障害者支援施設で生活する F さんの事例） 第 13 回：介護過程とケアマネジメントの関係性 第 14 回：個別援助とケアプランの関係性 第 15 回：介護過程とチームアプローチ（チームケアにおける介護福祉士の役割）					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 定期試験 70%、授業態度 30%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護過程展開法Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 植田裕太郎
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。				
[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅲで行った介護過程の実践展開の事例検討を基に情報収集に対する解釈・分析の適切性、自立に向けた介護過程の展開の実際、結果に対する評価の在り方などの視点で行い、利用者の状態・状況に応じた介護過程の実践的展開の実際の理解を深める。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 事例検討とは何か説明できる。 2. 情報収集に対する解釈・分析の適切性を検討できる。 3. 自立に向けた介護過程の展開の実際の検討ができる。 4. 介護過程の実践的展開事例の結果に対する評価の在り方の検討ができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス、事例検討とは 第2回：介護実習Ⅲで行った介護過程の実践的展開の振り返り① 第3回：介護実習Ⅲで行った介護過程の実践的展開の振り返り② 第4回：介護実習Ⅲ介護過程の実践的展開の事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性）① 第5回：介護実習Ⅲ介護過程の実践的展開の事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性）② 第6回：発表（スーパービジョン）① 第7回：発表（スーパービジョン）② 第8回：介護実習Ⅲ介護過程の実践的展開の事例検討（自立に向けた介護過程の展開の実際）① 第9回：介護実習Ⅲ介護過程の実践的展開の事例検討（自立に向けた介護過程の展開の実際）② 第10回：発表（スーパービジョン）① 第11回：発表（スーパービジョン）② 第12回：介護実習Ⅲ介護過程の実践的展開の事例検討（結果に対する評価の在り方）① 第13回：介護実習Ⅲ介護過程の実践的展開の事例検討（結果に対する評価の在り方）② 第14回：発表（スーパービジョン）① 第15回：発表（スーパービジョン）②				
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] レポート 80%、授業態度 20%		
[参考文献]				

授 業 概 要

科目名 介護過程展開法Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 植田裕太郎	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 秋	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開して、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。					
[授業全体の内容の概要] 本科目では、「介護実習Ⅲ」での体験を振り返り、保健・医療・福祉のチームアプローチの手段である介護保険制度におけるケアマネジメント過程のケアプランと介護過程の個別介護計画の関係について学ぶ。さらにチームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、介護過程とチームアプローチについて理解を深める。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ケアマネジメントとは何かを説明できる。 ・ケアプランと個別介護計画の関係性について説明できる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を説明できる。 ・介護過程とチームアプローチについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス、ケアマネジメントとは 第 2 回：介護過程とケアマネジメント 第 3 回：ケースカンファレンス・サービス担当者会議 *実習体験確認 第 4 回：サービス担当者会議のVTR視聴 第 5 回：ケアマネジメント過程と介護過程① 第 6 回：ケアマネジメント過程と介護過程② 第 7 回：ケアプランと個別介護計画の関係① 第 8 回：ケアプランと個別介護計画の関係② 第 9 回：チームアプローチにおける介護福祉士の役割 第 10 回：介護過程とチームアプローチ事例検討 1 第 11 回：介護過程とチームアプローチ事例検討 2 第 12 回：介護過程とチームアプローチ演習「食欲不振と全身の倦怠感を訴える利用者」① 第 13 回：介護過程とチームアプローチ演習「食欲不振と全身の倦怠感を訴える利用者」② 第 14 回：介護過程とチームアプローチ演習「社会資源」 第 15 回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 定期試験 70%、授業態度 30%	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 演習		授業担当者 ○佐野仁美、杉山せつ子 植田裕太郎	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。 介護実習、介護総合演習の意義・目的を学ぶ。介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習報告会へ向けてのまとめ・準備を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護実習Ⅰの教育的効果を上げることができる。 2. 実習後の振り返りを行い、実習報告会へ向けてまとめることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習前 1回：ガイダンス 介護総合演習、介護実習の概要 2回：介護実習の意義と目的 3回：介護実習Ⅰの目的・目標の理解 4回：実習施設に関する事前学習 5回：施設見学① グループホーム 6回：施設見学② 小規模多機能 7回：実習に必要な知識の事前学習、事前訪問について 8回：記録の書き方 9回：実習計画書の作成 10回：生活支援技術の確認 11回：実習におけるマナー、連絡、注意事項 実習中 12回：帰校日 実習後 13回：介護実習Ⅰ個別スーパービジョン 14回：介護実習Ⅰ振り返りまとめ 15回：介護実習Ⅰ実習報告会準備					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] レポート70%、授業態度30%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 ○杉山せつ子、佐野仁美 植田裕太朗	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（1単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。 介護実習Ⅰでの学びを踏まえ、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、総合的な学習を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護実習Ⅱの教育効果を上げることができる。 2. 他科目で学習した知識や技術を統合して介護過程のプロセスを理解できる。 3. 実習後の事例報告会へ向けてまとめることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習前 1回-2回：実習報告会 3回：介護総合演習Ⅱの概要、介護実習Ⅱの目的・目標の理解 4回：実習施設に関する事前学習 5回：実習に必要な知識の事前学習 6回：記録の書き方、事前訪問について 7回：実習計画書の作成 8回：生活支援技術の確認 9回：実習におけるマナー、連絡、注意事項 実習中 10回：帰校日（第1回目） 11回：帰校日（第2回目） 実習後 12回：介護実習Ⅱグループスーパービジョン 13回：介護実習Ⅱ個別スーパービジョン 14回：介護実習Ⅱ振り返りまとめ 15回：介護実習Ⅱ実習報告会準備					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] レポート70%、授業態度30%	
[参考文献] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版					

授 業 概 要

科目名 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 ○杉山せつ子、佐野仁美 植田裕太朗
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。				
[授業全体の内容の概要] 介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。 介護実習Ⅰ、Ⅱでの学びを踏まえ、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、総合的な学習を行う。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護実習Ⅲの教育効果を上げることができる。 2. 介護実習Ⅱで挙げた課題を、介護実習Ⅲで活かすことができる。 3. 個別の学習到達状況に応じた助言・指導を受け、介護計画の立案、実践、評価、修正ができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習前 1回-2回：事例報告会 3回：介護総合演習Ⅲの概要、介護実習Ⅲの目的・目標の理解 4回：実習施設に関する事前学習 5回：実習に必要な知識の事前学習 6回：記録の書き方、事前訪問について 7回：実習計画書の作成 8回：実習におけるマナー、連絡、注意事項 実習中 9回：帰校日（第1回目） 10回：帰校日（第2回目） 実習後 11回：介護実習Ⅲ個別スーパービジョン 12回：介護実習Ⅲ振り返りまとめ 13回：介護実習Ⅲ事例報告会準備 14回-15回：施設見学（地域包括センター）				
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] レポート70%、授業態度30%	
[参考文献] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版				

授 業 概 要

科目名 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 演習		授業担当者 ○杉山せつ子、佐野仁美 植田裕太朗
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な思考方法及び知識や技術を倫理的かつ包括的に整理し理解する。 事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）を根拠を持って表現し、説明できる能力を身につける。				
[授業全体の内容の概要] 介護過程の振り返りを行い、スーパービジョンを受けながら、ケーススタディを作成し、2年間の学びのまとめとする。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。 2. 事例研究や発表体験等を通して、根拠を踏まえた報告ができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 回- 2 回：事例報告会 3 回：ガイダンス ケーススタディとは 4 回：ガイダンス ケーススタディのまとめ方 5 回：介護過程の振り返り 6 回：発表会のもちかたについて 7 回：スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（実習の振り返りから情報の根拠） 8 回：スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか） 9 回：スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（テーマを決める） 10 回：スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（内容の筋書きを考える） 11 回：スーパービジョンを基にケーススタディの骨格を作成（構成する） 12 回：ケーススタディ発表準備 プレゼンテーション作成① 12 回：ケーススタディ発表準備 プレゼンテーション作成② 13 回：ケーススタディ発表準備 プレゼンテーションシュミレーション① 14 回：ケーススタディ発表準備 プレゼンテーションシュミレーション② 15 回：介護観をまとめる				
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] レポート70%、授業態度30%		
[参考文献]				

授 業 概 要

科目名 介護実習Ⅰ		授業の種類 実習		授業担当者 ○佐野仁美、杉山せつ子 植田裕太郎	
授業の回数		時間数(単位数) 90時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 春	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 介護実習は、高齢者福祉施設、障害者施設、老人保健施設の全ての施設で行う。 介護実習Ⅰでは、デイサービスまたはデイケア、医療的ケアの見学を含め、90時間の実習を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 要介護者の生活の場の理解ができる。 2. 利用者、家族との関わりを通じたコミュニケーションが実践できる。 3. チームアプローチにおける介護福祉士の役割について理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習開始後：施設オリエンテーション 第1週目～第2週目 ・利用者の生活状況全体を把握する ・基本的な介護技術の確認を行う ・利用者の個別ケアにおける多職種協働の実践や、介護福祉士の役割の重要性を理解できる ＊スーパービジョンを週1回行う 実習期間中は、実習指導者や当日の実習担当者等から指導を受け、実習を進める。 実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う。					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 実習評価表70%、実習記録30%	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 介護実習Ⅱ		授業の種類 実習		授業担当者 ○杉山せつ子、佐野仁美 植田裕太郎	
授業の回数	時間数(単位数) 180時間（4単位）	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護実習は、高齢者福祉施設、障害者施設、老人保健施設の全ての施設で行う。 介護実習Ⅱでは、訪問介護実習（前半）1日を含む、180時間の実習を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 受け持ち利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護ニーズが把握できる。 2. 受け持ち利用者の個別介護計画を立案・実践できる。 3. 個別計画の実践を行う中で、多職種との連携について、必要性和方法が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習開始後：施設オリエンテーション 第1週目 受け持ち利用者の決定及び情報収集 第2週目 情報の解釈分析・統合 第3週目 計画立案 第3週目 計画立案及び実践 第4週目 実践 ＊スーパービジョンを週1回行う 実習期間中は、実習指導者や当日の実習担当者等から指導を受け、実習を進める。 実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う。					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 実習評価表70%、実習記録30%		
[参考文献] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』中央法規出版					

授 業 概 要

科目名 介護実習Ⅲ		授業の種類 実習		授業担当者 ○杉山せつ子、佐野仁美 植田裕太郎
授業の回数	時間数(単位数) 180時間（4単位）	配当学年・時期 2年次 春		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護実習は、高齢者福祉施設、障害者施設、老人保健施設の全ての施設で行う。 介護実習Ⅲでは、訪問介護実習（後半）1日を含む、180時間の実習を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 受け持ち利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護ニーズが把握できる。 2. 受け持ち利用者の個別介護計画を立案・実践し、評価まで行うことができる。 3. 多職種との連携について、必要性和方法を理解でき、実践することができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習開始後：施設オリエンテーション 第1週目 受け持ち利用者の決定及び情報収集 第2週目 情報の解釈分析・統合、計画立案 第3週目 計画立案及び実践 第3週目 実践 第4週目 評価 ＊スーパービジョンを週1回行う 実習期間中は、実習指導者や当日の実習担当者等から指導を受け、実習を進める。 実習期間中は、実習日誌（学校指定の書式）の記録を行う。				
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 実習評価70%、実習記録30%	
[参考文献] 『新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』 中央法規出版				

授 業 概 要

科目名 発達と老化Ⅰ		授業の種類 講義		授業担当者 佐野仁美	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 発達の見点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体的機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。					
[授業全体の内容の概要] 発達の見点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を修得するための授業を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 人間の成長と発達の基礎的な知識を学習し、理解を深める。 2. 老年期の発達と成熟の特徴を学び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響を学習する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス 発達心理学の見点 第2回：人間の成長と発達—発達とは 第3回：人間の成長と発達—人間の発達段階と発達課題 第4回：人間の成長と発達—発達と個人差 第5回：老年期の発達と成熟—老化とは 第6回：老年期の発達と成熟—老年期の発達課題の留意点 第7回：老化が及ぼす心理的影響 第8回：老いの価値観・受容 主観的幸福感、QOL・生きがいの視点 第9回：老いの価値観・受容 老年期の適応課題とパーソナリティ 第10回：高齢者のこころの問題と精神障害 第11回：要介護による高齢者の心理 第12回：老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響					
[演習] 資料3種「高齢者の特徴」、「加齢による身体的機能の変化」、「高齢者に起こりやすい状態」を基にロールプレイ「高齢者のゲストスピーカー役」 第13回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 外見上の変化・免疫機能の変化・感覚機能の変化、咀嚼機能や消化機能の変化 第14回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響 循環器の機能の変化・呼吸器の機能の変化、筋・骨・関節の機能の変化・泌尿器・生殖機能の変化 第15回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 体温維持機能の変化、記憶機能の変化、認知機能の変化					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30% 定期試験 70%	
[参考文献] 『新・介護福祉士養成講座 14 心とからだのしくみ』 中央法規出版					

授 業 概 要

科目名 発達と老化Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者 杉山せつ子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年次 春	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体的機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] ①高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴を学び、実際に生活する場面と関連づけ理解する。 ②高齢者の症状の現れかたの特徴を理解し、生活支援の中でいつもとの違いを感じとり、医療職とどのように連携するのかについて学習する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 高齢者の疾患と生活上の留意点分かる。 2. 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点分かる。 3. 保健医療職との連携のポイント分かる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：ガイダンス 高齢者と健康 <u>演習</u> 50 年後を描く→疾病・障害カードのくじ引き→自分の気持ちの変化書き出し→発表 第 2 回：高齢者の症状・疾患の特徴(慢性、複数疾患) 第 3 回：高齢者の症状・疾患の特徴(非定型的な症状、閉じこもりと廃用症候群, 社会・家族の影響) 第 4 回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点(痛み(腹痛・骨・筋肉・関節)、めまい) 第 5 回：高齢者の症状・疾患の特徴(体重減少・食欲不振、しびれ、浮腫) 第 6 回：高齢者の症状・疾患の特徴(咳・痰、息切れ・息苦しさ、掻痒感) 第 7 回：高齢者の症状・疾患の特徴(不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血) 第 8 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (生活習慣病) 第 9 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (骨・関節系の病気) 第 10 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (歯・口腔の病気、目の病気、耳の病気、皮膚の病気) 第 11 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (呼吸器系の病気、腎・泌尿器系の病気、消化器系の病気) 第 12 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (循環器系の病気、脳・神経系の病気、精神の病気) 第 13 回：高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 (介護保険の特定疾患、感染) 第 14 回：保健医療職との連携—保健医療職とのチームケアの必要性 事例 1 第 15 回：保健医療職との連携—保健医療職との連携のポイント 事例 2			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30% 定期試験 70%	
[参考文献] 『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』 中央法規出版 『最新介護福祉全書 別巻 4 障害別生活支援技術』 メヂカルフレンド社 『最新介護福祉全書 11 障害の理解』 メヂカルフレンド社			

授 業 概 要

科目名 認知症の理解Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 植田裕太郎
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を修得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する科目である。			
[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況を理解し、医学的側面、社会的側面、心理的側面、福祉的側面からとらえるが本科目では主に歴史・理念・を踏まえ医学的側面から見た認知症の基礎を学習する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 認知症を取り巻く状況を述べる事ができる。 2. 医学的側面から見た認知症の基礎を理解し、認知症による障害、原因となる主な病気の症状の特徴等を述べる事ができる。 3. 若年性認知症の理解や検査・治療の実際を述べる事ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス、認知症とは、他 第2回：認知症を取り巻く状況① -認知症ケアの歴史、理念 第3回：認知症を取り巻く状況② -認知症高齢者の現状と今後、行政の方針と施策 第4回：医学的側面からみた認知症の基礎① -認知症による障害（記憶障害） 第5回：医学的側面からみた認知症の基礎② -認知症による障害（見当識障害） 第6回：医学的側面からみた認知症の基礎③ -認知章による障害（失語症、失行、失認、他） 第7回：認知症と間違えられやすい症状 - うつ病、せん妄、幻覚、妄想、他 第8回：認知症の原因となる主な病気の症状の特徴① -アルツハイマー病 第9回：認知症の原因となる主な病気の症状の特徴② -脳血管性疾患 第10回：認知症の原因となる主な病気の症状の特徴③ -レビー小体病、ピック病他 第11回：若年性認知症 第12回：病院で行われる検査・治療の実際 - 検査、治療、予防、他 第13回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（総論） 第14回：認知症が及ぼす心理的影響と日常生活 第15回：認知症の人の特徴的な行動障害（総論）			
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解』 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80%、レポート 10%、授業態度 10%	
[参考文献]			

授 業 概 要

科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 植田裕太郎	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 春	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を修得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する科目です。本科目は認知症に伴う心と体の変化と日常生活について学習する。					
[授業全体の内容の概要] 認知症に伴うこころとからだの変化をとらえる。認知症を取り巻く状況を理解し、医学的側面、社会的側面、心理的側面、福祉的側面からとらえるが本科目では主にこころの行動等の心理的側面と社会的側面を学習し、地域包括支援センター等連携と協働や家族への支援を講義やグループワークを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 認知症の方の特徴的な心理行動と機能の変化と日常生活への影響を理解し述べるができる。 2. 認知症の方の支援と併せ、地域とともに家族をサポートすることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：認知症の人の特徴的な行動障害① -繰り返し行為 第 2 回：認知症の人の特徴的な行動障害② -思い違い現象 第 3 回：認知症の人の特徴的な行動障害③ -目的未達成現象（徘徊、他 第 4 回：認知症の人の特徴的な行動障害④ -生理的行為の過剰反応（食事拒否、他） 第 5 回：認知症の人の特徴的なこころの理解 -不安、混乱、怯え、孤独感、怒り、悲しみ、他 第 6 回：認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響 - アセスメントの視点 第 7 回：認知症の人の特性を踏まえたアセスメント① -低下する機能の把握 第 8 回：認知症の人の特性を踏まえたアセスメント② -保持される機能の把握 第 9 回：認知症の人の特性を踏まえたアセスメント③ -認知症の型、自立度、QOL、家族関係 第 10 回：環境変化が認知症の人に与える影響 -馴染みの人間関係、居住環境、他 第 11 回：認知症の人へのサポートのポイント - 居宅介護の場合 第 12 回：認知症の人へのサポートのポイント - 施設介護の場合 第 13 回：地域におけるサポート体制 - 地域包括支援センターの役割・機能、地域連携、協働 第 14 回：地域におけるサポート体制 -ボランティア、サポーターの役割・機能、チームアプローチ 第 15 回：家族への支援の在り方 - 家族のレスパイト、認知症受容の課程での支援					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80%、レポート 10%、授業態度 10%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 障害者福祉論		授業の種類 講義		授業担当者 ○川向雅弘、佐々木正和	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間(2単位)		配当学年・時期 2年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する学習とする。 障害の概念つまり「障害とは何か」を理解し、障がいのある人の生活を理解する科目である。障がいのある人に関わる福祉施策やサービス・利用できる社会資源、さらに、障害者福祉の基盤にあるノーマライゼーションや自立生活にかかわる思想・価値、人権についての理解を目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 障害の基礎的理解「障害」という概念形成や暮らしの歴史、障害のある人をとりまく社会環境と制度施策に焦点化し、「障害」の全体像を解説する。事例、先行文献、視覚教材等を用いて講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 「障害」とは何か、「障害児・者」の定義が説明できる。 2. 障がいのある人が置かれてきた歴史を説明できる。 3. 障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。 4. 障害者総合支援法（障害者自立支援法）の意義・現状・課題が説明できる。 5. 障がいのある人への支援について、法制度とサービスの関連づけを説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：オリエンテーション（「障害者」とは誰か） 第2回：「障害（者）」の定義と概念（ICIDHとICFの特徴） 第3回：障がいのある人が置かれた歴史的状況と障害者運動の歩み 第4回：障害者福祉の理念（自立） 第5回：障害者福祉の理念（ノーマライゼーション） 第6回：社会福祉基礎構造改革と障害者福祉の方向性 第7回：障害者福祉にかかわる法体系 第8回：障害者総合支援法（理念と考え方） 第9回：障害者総合支援法（サービス体系・財源・自己負担） 第10回：障がいのある人を支援する機関と専門職、多職種連携 第11回：身体に障がいのある人への支援 第12回：知的な障がいのある人への支援 第13回：精神に障がいのある人への支援 第14回：障害者関連施策と地域サポート体制（雇用・住宅・教育等） 第15回：障がいのある人と人権					
[使用テキスト] 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』 中央法規出版（第5版）			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20%、課題レポート 40%、定期試験 40% によって評価する。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 障害の理解		授業の種類 講義		授業担当者 古川和稔	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識について解説する。また、チームアプローチや家族への支援については、実践例を紹介しながら講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。 2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：障害の医学的側面の基礎的知識 身体障害(1)視覚障害の種類と原因、特性について理解する。 第2回：障害の医学的側面の基礎的知識 身体障害(2)聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性について理解する。 第3回：障害の医学的側面の基礎的知識 身体障害(3)重複障害のある人の生活について理解する。 第4回：障害の医学的側面の基礎的知識 身体障害(4)肢体不自由の種類と原因、特性について理解する。 第5回：障害の医学的側面の基礎的知識 身体障害(5)内部障害の種類と原因、特性について理解する。 第6回：障害の医学的側面の基礎的知識 知的障害の種類と原因、特性について理解する。 第7回：障害の医学的側面の基礎的知識 精神障害の種類と原因、特性について理解する。 第8回：障害の医学的側面の基礎的知識 高次脳機能障害の種類と原因、特性について理解する。 第9回：障害の医学的側面の基礎的知識 発達障害の種類と原因、特性について理解する。 第10回：障害の医学的側面の基礎的知識 重症心身障害重症心身障害のある人の生活について理解する。 第11回：障害の医学的側面の基礎的知識 難病の種類と原因、特性について理解する。 第12回：障害の医学的側面の基礎的知識 障害のある人の心理 障害の受容、適応と適応機制について理解する。 第13回：障害の医学的側面の基礎的知識 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響障害のある人の特性を踏まえたアセスメントについて理解する。 第14回：家族への支援 介護負担の軽減について理解する。 第15回：連携と協働 チームアプローチ他職種との連携について理解する。					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験60%、授業態度20%、課題提出物20% によって評価する。		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 こころとからだ I		授業の種類 講義		授業担当者 ○杉山せつ子、高山暢子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 春		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 移動、身じたく、食事の介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 移動、身じたく、食事の支援を行う上で必要なこころとからだの知識について講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 移動に関連したこころとからだのしくみについて説明できる。 2. 身じたくに関連したこころとからだのしくみについて説明できる。 3. 食事に関連したこころとからだのしくみについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：生命維持・恒常のしくみ 第2回：人体部位の名称、ボディメカニクス、関節の可動域など 第3回：移動に関連したこころとからだの基礎知識 第4回：移動に関連したこころとからだのしくみ 第5回：機能の低下・障害が及ぼす移動への影響 第6回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第7回：身じたくに関連したこころとからだの基礎知識 第8回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ 第9回：機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響 第10回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第11回：食事に関連したこころとからだの基礎知識 第12回：食べることに関連したこころとからだのしくみ 第13回：機能の低下・障害が及ぼす食事への影響 第14回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第15回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 70%、授業態度 30%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 こころとからだⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 植田裕太郎	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 入浴、清潔保持、排泄の介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について基礎的な能力を身につけることを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 入浴、清潔保持、排泄の支援を行う上で必要なこころとからだの知識について講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて説明できる。 2. 排泄に関連したこころとからだのしくみについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識（清潔保持の生理的意味） 第2回：入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識（清潔保持に関連したからだの器官） 第3回：入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（リラックス、爽快感を感じるしくみ） 第4回：入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（皮膚の汚れ・発汗のしくみ） 第5回：機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響（原因） 第6回：機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響（かゆみ、かぶれ褥瘡、その他） 第7回：機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響（入浴が及ぼすからだへの負担） 第8回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第9回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識（排泄の生理的意味、便・尿の性状、量、回数） 第10回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識（尿の生成のしくみ、便の生成のしくみ） 第11回：排泄に関連したこころとからだのしくみ（排尿のしくみ） 第12回：排泄に関連したこころとからだのしくみ（排便のしくみ） 第13回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響(原因) 第14回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響（便秘、下痢、失禁、その他） 第15回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 70%、授業態度 30%		
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 こころとからだⅢ		授業の種類 講義		授業担当者 ○佐野仁美、高山暢子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 2年次 春	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 本科目では、人間の欲求の基本的理解や自己概念と尊厳、こころしくみの基礎について人間理解の視点から解説する。さらに、からだのしくみの基礎として学生自身が解剖のイラストを描いたり、視覚教材を説明したりする参加型の講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. こころのしくみの理解では、対人援助に必要な人間の欲求の基本的な理解と感情や思考等を適切なことばで説明できる。 2. からだのしくみの理解では、生活支援のために必要とされる、基本的な人体の構造や機能について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回： ガイダンス、健康とは何かについて。 第2回： こころのしくみの理解 人間の欲求、自己概念と尊厳 第3回： こころのしくみの理解 こころのしくみの基礎 第4回： こころのしくみの理解 認知のしくみ、知能 第5回： こころのしくみの理解 意欲・動機づけのしくみ 第6回： こころのしくみの理解 適応のしくみ、防衛機制 第7回： からだのしくみの理解 からだのしくみの基礎（自律神経、生命維持と恒常性のしくみ） 第8回： からだのしくみの理解 神経系の構造と機能 第9回： からだのしくみの理解 骨・筋系の構造と機能 第10回： からだのしくみの理解 感覚器系の構造と機能 第11回： からだのしくみの理解 呼吸器・消化器系の構造と機能 第12回： からだのしくみの理解 生殖器・内分泌系の構造と機能 第13回： からだのしくみの理解 循環器系の構造と機能 第14回： からだのしくみの理解 からだの動き、関節の運動と関節可動域 第15回： からだのしくみの理解 ボディメカニクス					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 70%、授業態度 30%	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 こころとからだⅣ		授業の種類 講義		授業担当者 杉山せつ子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 2年次 秋	
必修・選択 必修					
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。本科目では、「睡眠」「死にゆく人」を中心に扱う。					
[授業全体の内容の概要] 福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけた上に、「睡眠に関連したこころとからだのしくみ」「死にゆく人のこころとからだのしくみ」の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、睡眠、終末期に関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。 2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：「こころとからだのしくみⅠ」の位置づけなどのオリエンテーション・睡眠とは・・・ 第2回：睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 メカニズム及びなぜ睡眠が必要なのか 第3回：睡眠のしくみとはたらき睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第4回：心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 不眠とは 第5回：概日リズムの問題、仮眠、睡眠中の異常の現象・行動 第6回：変化の気づきと対応 観察 第7回：睡眠に関連した医療職との連携ポイント 第8回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携 第9回：死にゆく人のこころとからだのしくみ 第10回：「死」を理解する 死とは（死の捉え方） 第11回：「尊厳死」の捉え方 ディベート 第12回：終末期から危篤、死亡時のからだの理解 第13回：死にゆく人のこころの変化 第14回：「死」に対するこころの理解 第15回：終末期における医療職との連携					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 80%、授業態度 10%、課題提出物 10% によって評価する。	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 医療的ケアⅠ		授業の種類 講義		授業担当者 ○杉山せつ子、高山暢子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 春	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 福祉の専門職に求められる医療的ケアについて基本的な知識・理論や技能を体系的に学ぶ。 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識を修得する。					
[授業全体の内容の概要] 本科目では、医療的ケアに関係する制度の概要や感染予防、安全管理体制等、医療的ケア実施の基礎を学び、現在社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明することができる。また医療的ケアⅡにつなげる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 医療的ケアとはどういうものか説明できる。 2. 介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことが出来るようになった背景について説明できる。 3. 医療的ケアを安全に実施するための医療的ケア実施の基礎について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 医療的ケア実施の基礎 第1回：ガイダンス 医療的ケアとは 第2回：医行為について 第3回：喀痰吸引等制度（社会福祉士および介護福祉士法の改正） 第4回：医療的ケアと喀痰吸引等の背景 第5回：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 第6回：救急蘇生 第7回：感染予防 第8回：介護職の感染予防 第9回：「清潔保持と感染予防（ガウンテクニック、使い捨て手袋など）」 第10回：療養環境の清潔、消毒法／消毒と滅菌 第11回：身体・精神の健康／健康状態を知る項目／急変状態について 第12回：「バイタルサインの見方」 第13回：呼吸器のしくみ 第14回：消化器のしくみ 第15回：まとめ					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 別巻 医療的ケア』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30%、定期テスト 70%	
[参考文献]					

授 業 概 要

科目名 医療的ケアⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 ○杉山せつ子、高山暢子	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間（2単位）		配当学年・時期 1年次 秋	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を修得する。					
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアは、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）と経管栄養（基礎的知識・実施手順）を修得する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 喀痰吸引・経管栄養で使用する器具・機材と保管方法について説明できる。 ・ 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）・経管栄養（基礎的知識、実施手順）について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 第1回：喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引 第2回：子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第3回：呼吸器系の感染と予防（吸引との関連）、急変状態、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策 第4回：喀痰吸引器で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持 第5回：吸引の技術と留意点 第6回：痰の吸引に伴うケア 第7回：報告及び記録 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 第8回：経管栄養法とは 第9回：注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点 第10回：急変・事故発生時の対応と事前対策 第11回：子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 第12回：経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 第13回：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 第14回：経管栄養の技術と留意点 第15回：経管栄養に必要なケア、報告及び記録					
[使用テキスト] 『新・介護福祉士養成講座 別巻 医療的ケア』 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 授業態度 30%、定期テスト 70%	
[参考文献] 『介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』 中央法規出版					

授 業 概 要

科目名 医療的ケアⅢ		授業の種類 演習		授業担当者 ○秋山恵美子、高山暢子、 杉山せつ子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）		配当学年・時期 2年次 秋		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を修得する。					
[授業全体の内容の概要] 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）について講義を行ったうえで、シミュレーターを用いた演習を行い、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するための知識・技術を修得する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）を身につける。 2. 経管栄養（基礎的知識・実施手順）を身につける。 3. 救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（喀痰吸引に必要な人体の構造と機能） 第2回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応） 第3回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（口腔内および鼻腔内） 第4回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（気管カニューレ内部） 第5回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第6回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習 第7回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経管栄養に必要な人体の構造と機能） 第8回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応） 第9回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（胃瘻および腸瘻による経管栄養） 第10回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経鼻経管栄養） 第11回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第12回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習 第13回：医療的ケア実施の基礎「救急蘇生法」 第14回：救急蘇生法をシミュレーターを用いて演習 第15回：救急蘇生法をシミュレーターを用いて演習					
[使用テキスト] 「介護職のための喀痰吸引・経管栄養ビジュアルガイド」 メディカ出版			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20%、実技テスト 80%		
[参考文献] なし					

授 業 概 要

科目名 健康長寿と運動		授業の種類 講義		授業担当者 安田智洋
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間（1単位）	配当学年・時期 1年次 秋		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 総務省統計局の人口推計調査（2015年）により、日本の65歳以上の高齢者人口は26%を越えたことが判明した。今後さらに高齢者の割合は上昇すると見込まれ、健康長寿（介護予防）は国家の最優先課題の一つとされる。本授業では、健康長寿社会を目指す中で、“運動（身体活動）”をどのように捉えればよいのかについて、講義や実践を通じて多様な視点から学習することを目的とする。 運動に関する知識や理解を深め、高齢者や障がい者の身体の実状について、身体活動の面から詳細に判断できる能力を養うことがねらいである。				
[授業全体の内容の概要] 発展した健康長寿社会を見据え、その中で運動をどのように捉えたらよいかを学習する。授業では、身体運動の実践と併せ、様々な生理学的指標を計測しながら科学的に学習し、自分自身の健康づくりや介護福祉の現場で役立つ知識・技術を学ぶ。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. キリスト教精神を基盤とした隣人愛について理解し、他者を尊重した行動、集団での役割を自覚して行動できる。 2. 自分自身の健康づくりについて深く学習できる。 3. 介護福祉専門職となるため、自己を律して行動できる。 4. 個人の体力の違いを学習し、それらに応じた運動、身体活動の実践方法を理解する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第1回：ガイダンス ＜着替え不要＞ 第2回：講義（健康長寿と運動）＜着替え不要＞ 第3回：体力測定（質問紙、体組成、血圧、敏捷性、筋力・筋パワー、バランス能力、有酸素能力） 第4回：つもりと実際（筋力・瞬発力の推定値と実測値の比較） 第5回：呼吸循環と健康（有酸素運動中の呼吸数と心拍数） 第6回：ロコモティブシンドローム・サルコペニア（超音波法や簡易評価法など） 第7回：有酸素運動（推定心拍数から運動強度を算出） 第8回：レクリエーションスポーツ（運動時の心拍数・主観的運動強度の測定） ＊第3回～第8回は第1体育館での授業を予定				
[使用テキスト] なし（必要に応じて資料を配布）		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 50%とレポート 50% 60点（100点中）以上に単位を認定		
[参考文献]				

授 業 概 要

科目名 音楽心理学	授業の種類 講義	授業担当者 二宮貴之	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1年次 秋	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 本科目では、「音楽心理学」とはどのような分野なのかを理解すると共に、音楽が日常生活に果たしている役割、社会や教育における音楽の意義、医療と音楽の関わりについて考えることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 前半は日常生活における音楽の意義について学び、後半は医療や介護、特別支援教育における音楽の役割について考えていく。音楽心理学に関わる理論について学ぶだけでなく、音楽が実際はどのように活用されているのかを理解するために、様々な視聴覚教材や実践を取り入れながら学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 日常生活における音楽の役割について考え、人間を理解する上で多角的な視点を身につける。 2. 医療や介護における音楽の効果について考え、現場で音楽を活用できる力を身につける。 3. 日本および諸外国で音楽がどのように活用されているのか幅広い知識を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 第 1 回：音楽心理学とは 第 2 回：音楽の機能：日常生活における音楽 第 3 回：なぜ音楽を聴くのか 第 4 回：音楽と消費行動 第 5 回：特別支援教育における音楽 第 6 回：音楽と医療 第 7 回：認知症と音楽 第 8 回：音楽の役割とは：まとめ			
[使用テキスト] 特になし：授業中に適宜紹介する。		[単位認定の方法及び基準] レポート：70%	
[参考文献]		授業への取り組み状況：30%	